# クルア ンの著者は なのか（1／3）： 人による作品である可能性

：

明:クルア ンがムハンマドによって著された可能性に しての概 。

目: 事イスラ ムの真 性を示す数々の と考クルア ンの信 性とその保持

目: 事 クルア ンクルア ンの信 性とその保持

より: iiie.net（IslamReligion

日06 Dec 2009

集日 21 Oct 2010

クルア ンの原文が 在まで保持され けて来たことは、既に されています。しかし私たちいかにしてそれが神授のものであり、人 によるものではないことを することが出来るでしょうか? それにはクルア ンの信 性、 威、そして源泉について しく していく必要があります。

クルア ンの著者として、ムスリムはそれが逐 的（一 一 が忠 にたどられること）に神により、ムハンマド（彼に神の称 あれ）へ 示されたことを信じます。しかしこの 解を支

持しない非ムスリムであっても、最初にクルア ンが7世 マッカのアラブ人であるムハンマドの口から 言され、 されたこと、そしてその 以来何の 更も加えられていないということについては合意しています。

クルア ンが神によって著されたのであるという、ムスリムの主 する“内部 ”、すなわちクルア ン本体からの既述（4：82；6：19；6：92；27：6；45：2など）が 疑的な目で られることは理解出来ます。なぜなら であっても、自分の 典が神の言 であると主 することは、少なくとも可能だからです。それゆえ私たちは理性と客 性に基づき、クルア ンの起源および 威が神であるという“外部 ”を探索しなければなりません。

この“外部 ”の に しては、 明快な 成の消去法が用いられます。つまり“ がクルア ンの著者なのか? ”という の答えに辿り着くためには、それに して疑わしい答えを消去していくという方法です。 な言い方をすれば、クルア ンの 定的な、または（少なくとも）最も な著者 源泉は、その可能性の い候 を除去していくことにより、最 的に めることが出来るのです。

クルア ンの源泉に し、非ムスリムの人々の主 は 々であり、その 解は一致していません。以下のリストでは、著者の“可能性のある” の主な候 を げてみます。

１）ムハンマド

２）アラブ 人、学者など

３）非アラブ人学者、または 人、宗教者

４）僧 またはラビ（ユダヤ キリスト教からの源泉）

５） 魔（または他の欺 的“ ”や“宇宙人”など）

６）神

それでは、これらの がいかに に耐え得る主 であるか、クルア ンと 史の 点からじっくりしていきましょう。

# ムハンマド：文盲で 学な人物

ムハンマドが み きを知らなかったことは公知の事 であり、当 の非ムスリムや、 代 史学者たちの でもそれに を唱える者はいません。彼は教育を受けず、教 さえいませんでした。彼は一度も口 による作 散文の作成などをしたこともありませんでした。包括的な法を有し、内部矛盾の一切から解き放たれているクルア ンは、非ムスリムの学者でさえその 大さを えているほどです。[1]
クルア ンの内容は、社会 思想 人 争 平和 婚姻 崇 商 など、人生におけるあらゆる事柄、矛盾なく既述されています。クルア ンが一度も 集 追 されたことがないのは、その必要性が全くないからであるともいえます。上 のような 大な主 の数々が、学 の く、またそれらの 料の欠如していた 境に住んでいたことに加え、 むこと自体出来なかった7世 のアラブ人によって、いかにして的 に 明することが出来たのでしょうか? 一体人 の 史上、いつ何 で文盲で 学な人物がそのような 典を り出すことが出来たでしょうか?

# ムハンマドは さで知られていた

ムハンマドの真 さ、正直さ、 さは、イスラ ムが まる前の当 の人々の で知れ渡っており、彼は“アル＝アミ ン”（正直者）という敬称でもって呼ばれた程でした。彼が嘘をついた事 は全く されておらず、西洋における多くの 代 洋学者たちも、彼ら自身による故意の欺 に反し、 言者が神による 示を心の底から信じていたことは疑いの余地がないと めています。[2]

もしも彼の さが疑がわしいのであれば、彼は 人的な 光を求めてクルア ンを作したはずですが、なぜ彼はその著作 を否 し、代わりにそれが神からであると主 したのでしょうか? 特にマッカの多神教徒たちはクルア ンに き入っており、そのような 典を り出すのは不可能だと めていたにも わらず、なぜそうする必要があったのでしょうか。更に彼の は、その朗 を止めるのと引き えに、マッカの王 を始め、彼の望むあらゆるものの提供すら申し出て来たのです。もし彼が自らの名誉と支配を望んでいたのであれば、どうして彼はそのような 好の申し出を断り、代わりに 素な生活、迫害、制裁、更には唯一神によるメッセ ジに し 威を感じた者たちからの 行 や侮辱に甘んじたのでしょうか?

これらに加え、文盲であったムハンマドが 人的利益を目的にクルア ンを著し、そのクルア ンの中で彼自身が 正されたり、 されることが理に叶っているでしょうか? 例えば、以下の にはこう述べられています:

***“??????????????????????????????????????????”??????80?1?2?***

また、こうもあります。

***“??????????????????????????????????????????????????????????????????????”??????33?37?***

これら以外にも、18章23 24 などを参照してもよいでしょう。なぜ彼はクルア ンのこういった 々から、自分の都合が良いように削除したり 更したりしなかったのでしょうか? 彼の目的が 威や名声であれば、このような 々は彼にとって好都合ではなかったのは明白です。このような 々の存在は、ムハンマドが真 を った神の使徒であったことを明に 明しています。

---

Footnotes:

1 参照: Fredrick Denny,Islam,ニュ ヨ ク: Harper & Row,1987年,88 ;モリス ブカイユ,The Bible, the Quran and Scie インディアナポリス:American Trust Publications, 1983年,163 ;H.A.R. Gibb, Wither Islam, ニュ ヨ ク:A.M.S. Press, 1932年,350 ;など。

2 参照:H.A.R.Gibb,Mohammedanism,ロンドン,Oxford University Press,1962年,25 。

この 事のウェブアドレス:

https://www.islamreligion.com/jp/articles/17

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。